

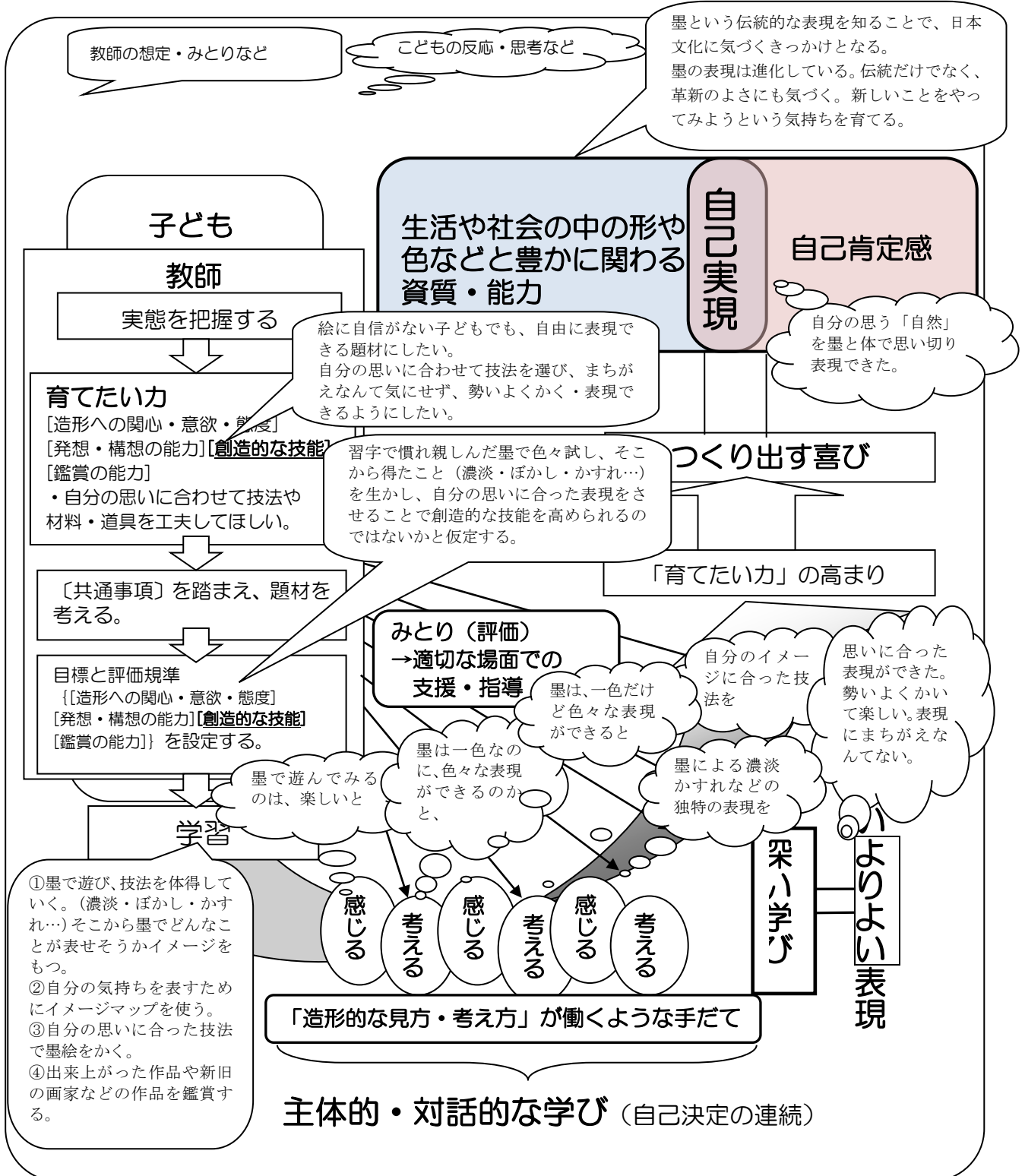
第5学年3組 図画工作科学学習指導案

指導者 川崎市立新城小学校

田口 雅之

1. 題材名 「LIVE SUIBOKU」 A表現(1) 絵に表す 6時間扱い

2. 「その子らしいよりよい表現」につながる授業の構想



④筆以外の描画材を用意し、思いに合った表現ができるようにする。

筆以外の身近な描画材を取り入れることで、墨の様々な表現ができるようにさせたい。例えば、ストローでたらしこみ、ブラシでリズムにのって勢いよく、霧吹きによる細かい粒の表現、糸で描く・・・など、自分の思いに合った表現を選べるようにする。ここでは、まちがえですら味になることを理解させる。

⑤ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。

子どもたちが見つけた技法や子どもが見つけれなかった技法を教師が紹介し、そのまま掲示することで、どんな表現ができるかすぐにわかるようにする。その中から自分の思いに合う技法を選べるようにする。

⑥墨の濃淡を確認するために、試しの紙を用意し、試しの時間を確保する。

墨は思い通りに濃淡がでない。また筆の書き味もちがってくる。自信をもって表現できるよう試しの紙を用意し、納得できるまで試せるようにする。また、そのための時間をしっかりと保障する。

⑦作品をつくる時間に制限を設ける。そのために音楽を用いる。

水墨画をつくる際には、思い切りも必要である。思い通りにならなかったり、水が乾かなかったりすることもある。しかし、制限時間を設けることで、集中してその時間、作品に向き合えるようにしたい。そのために音楽を流している間は、集中することを伝える。時間内に終わってしまった場合は、手を止めることも伝える。水墨画では、余白も大事だということも考えさせたい。

⑧新旧の水墨画を鑑賞し、表現の進化やそこに表された思いを感じ取らせる。

水墨画は古くから日本に伝えられている。②でも述べたが、古くから山水画も多くかかっている。そこで、昔からある作品と現代の作家の作品を見比べて鑑賞することで、水墨の伝統的な技法と新しい表現を感じ取らせ、自分の表現や生活や社会の中での水墨表現の魅力に気付かせたい。

(4) 題材のねらい

○人それぞれイメージにあった形や色・表現方法が水墨でできることを知る。

○墨という伝統的な表現を知ること、日本文化に気づききっかけとなる。伝統だけでなく、革新のよさにも気づき、新しいことをやってみようという気持ちを育てる。

5. 題材の評価規準 ～ 4つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○墨の表現に興味をもち遊びながら、様々な技法を試している。 ○試して得た技法を進んで自分の表現に取り入れようとしている。	○水墨の表現を知り、それらを使ってどのように主題を表そうか考えている。	○墨のよさを生かしながら、自分の表したい思いが効果的に表現できるような技法を見つけ、工夫してえがいている。 ○墨の表現がどのようなものに見えるのか見立て、それを自分の表したいものの表現に生かそうとしている。	○参考作品を見て、墨絵の面白さやよさに気付く。 ○できあがった作品を見たり、その作品についての友達の思いを聞いたりしている。

6. 準備

[教師] 障子紙、様々な描画材（大小の筆、霧吹き、ストロー、ローラー・・・）

[子ども] 筆 墨汁

3 次	LIVE SUIBOKU～「生きている自然」を墨で表現しよう～		
9 0 分	<p>◇活動の流れを知る。</p> <p>◇本番の紙に表す前に、自分で墨の濃淡を調整したり、筆による表現のちがいを試したり、確認する。</p> <p>◇練習してできあがったものを見合う。</p> <p>◇自分の思う「生きている自然」をかく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝焼けを墨で表すにはどうしよう。 ・波を表現するにはどんな筆でかこうか。 <p>◇出来上がった作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品からは、やわらかい感じがする。 ・筆で勢いよくかいている。どんな気持ちでかいたんだろう。 	<p>○自分の考える「生きている自然」を表すことを確認する。</p> <p>◎墨の濃淡や筆の太さなどを確認するために、試しの紙（半紙・新聞紙）を用意し、練習する時間を確保する。</p> <p>○練習をしたら、かいた様子を見合う時間をとる。よい表現は取り上げる。</p> <p>○本番の紙に一発勝負でかくことを伝える。（時間内にかくこと、時間より早く終わってもよいことを伝える。）</p> <p>◎作品をつくる時間に制限を設ける。そのために音楽を用いる。</p> <p>◎筆以外の描画材を用意し、思いに合った表現ができるようにする。</p> <p>◎ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。</p> <p>○出来上がった作品を見て、鑑賞をさせる。よい表現はとりあげる。</p>	<p>【関・意・態】 試して得た技法を進んで自分の表現に取り入れようとしている。（活動）</p> <p>【発】 水墨の表現を知り、それらを使ってどのように主題を表そうか考えている。</p> <p>【創】 墨のよさを生かしながら、自分の表したい思いが効果的に表現できるような技法を見つけ、工夫してえがいている。（活動・作品）</p> <p>【鑑】 できあがった作品を見たり、その作品についての友達の思いを聞いたりしている。（活動・ワークシート）</p>
水墨の世界を味わって～学習を振り返ろう～			
	<p>◇学級や学年の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾くと、濃淡がはっきり出るね。 <p>◇新旧の画家による水墨画の作品の鑑賞をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の画家の水墨画は、細かいところがはっきりかかっている。濃淡がわかりやすい。 ・現代の水墨画は抽象的だ。 <p>◇鑑賞してわかったことをワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ自然でも、人それぞれで、表し方もそれぞれあると分かった。 	<p>○前時に完成させ、乾いた水墨画を鑑賞し合う。</p> <p>◎新旧の水墨画を鑑賞し、表現の進化やそこに表された思いを感じ取らせる。</p> <p>○授業の振り返りをする。この授業でどんな学びがあったのか、振り返らせる。</p>	<p>【鑑】 参考作品を見て、墨絵の面白さやよさに気付く。（活動・ワークシート）</p>

8. 本時の活動 (5/6 時間 60 分)

(1) 本時のねらい

○自分の思いに合わせて、形や色・水墨表現を決めて表すことができる。

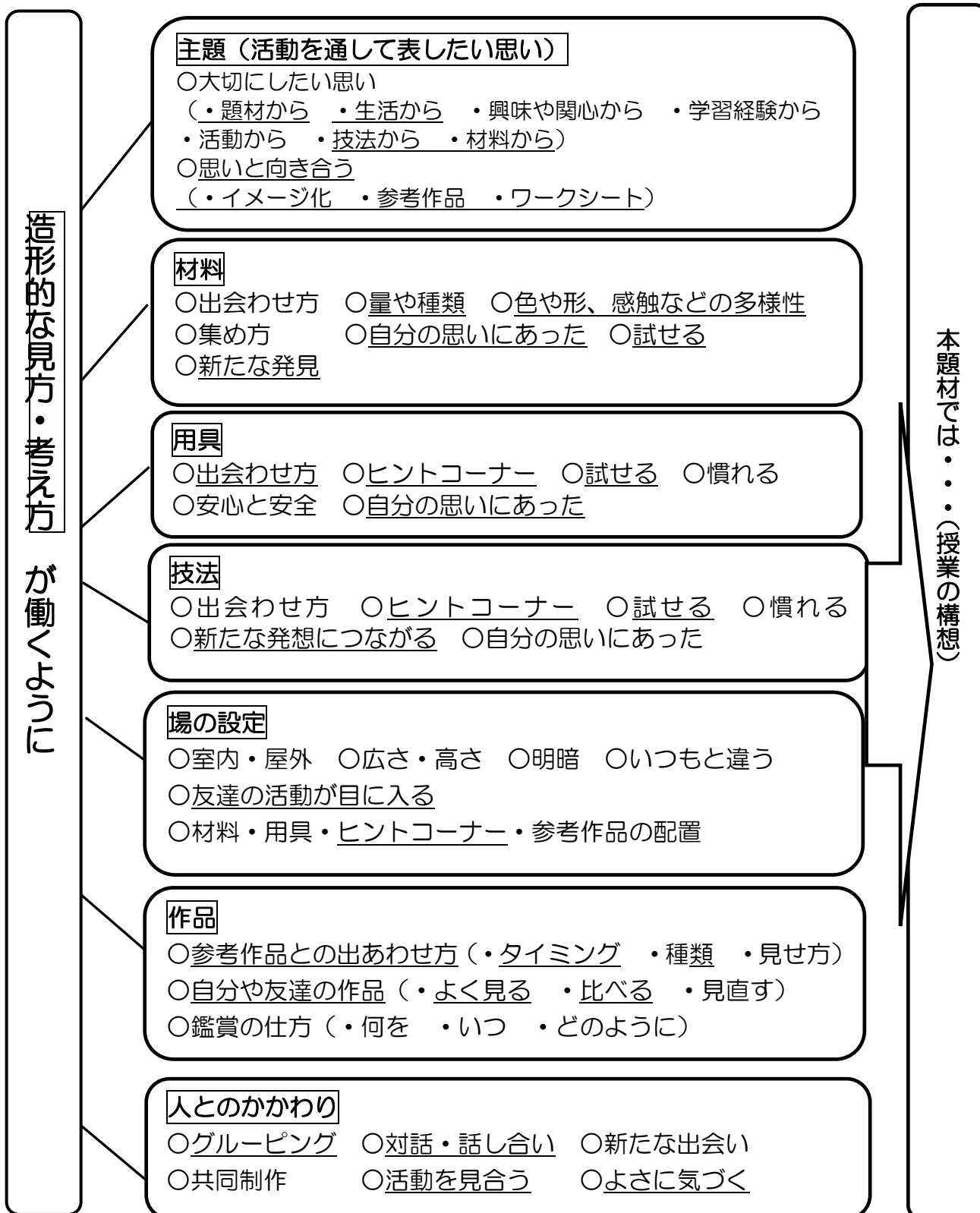
(2) 本時の展開

<p>◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応</p>	<p>○教師のかかわり・手だて ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て</p>	<p>評価規準【 】と 評価方法()</p>
<p>LIVE SUIBOKU～「生きている自然」を墨で表現しよう～</p>		
<p>◇活動の流れを知る。 ・これまでかいたイメージマップをもとに表したいことをかこう。</p> <p>◇本番の紙に表す前に、自分で墨の濃淡を調整したり、筆による表現のちがいを試したり、確認する。 ・筆の太さを決めよう。 ・墨の濃淡はこれでいいかな。 ・この道具でかくと、どんな表現になるんだろう。</p> <p>◇練習してできあがったものを見合う。 ・勢いよくかいていて、いいな。 ・どんな道具でかいたんだろう。聞いてみたい。</p> <p>◇自分の思う「生きている自然」をかく ・朝焼けを墨で表すにはどうしよう。 ・波を表現するにはどんな筆でかこうか。 ・木の伸びている感じを表すために墨の濃さを考えよう。</p> <p>◇出来上がった作品を鑑賞する。 ・この作品からは、やわらかい感じがする。 ・筆で勢いよくかいている。どんな気持ちでかいたんだろう。</p> <p>◇片づけをする。</p>	<p>○自分の考える「生きている自然」を表すことを確認する。</p> <p>◎墨の濃淡や筆の太さなどを確認するために、試しの紙(半紙・新聞紙)を用意し、練習する時間を確保する。</p> <div data-bbox="683 801 1118 996" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">半紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">新聞紙</div> </div> </div> <p>○練習をしたら、かいた様子を見合う時間をとる。よい表現は取り上げる。</p> <p>○本番用紙に一発勝負でかくことを伝える。(時間内にかくこと、時間より早く終わってもよいことを伝える。)墨の濃淡や筆の太さを確認するための練習用紙も用意させる。</p> <div data-bbox="676 1368 1131 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本番用紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">半紙</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">新聞紙</div> </div> </div> <p>◎作品をつくる時間に制限を設ける。そのために音楽を用いる。 ◎筆以外の描画材を用意し、思いに合った表現ができるようにする。 ◎ヒントとして、これまで見つけた墨の技法や教師の提示する技法を掲示する。</p> <p>○出来上がった作品を見て、鑑賞をさせる。よい表現はとりあげる。</p>	<p>【関・意・態】 試して得た技法を進んで自分の表現に取り入れようとしている。 (活動)</p> <p>【発】 水墨の表現を知り、それらを使ってどのように主題を表そうか考えている。</p> <p>【創】 墨のよさを生かしながら、自分の表したい思いが効果的に表現できるような技法を見つけ、工夫してえがいている。 (活動・作品)</p> <p>【鑑】 できあがった作品を見たり、その作品についての友達の思いを聞いたりしている。 (活動・ワークシート)</p>

<参考資料>

「造形的な見方・考え方」が働くような手だて

1. 「造形的な見方・考え方」を働かせながら、主題・材料・技法と関わることができるようにするために・・・
2. 「造形的な見方・考え方」を働かせながら、作品をつくりたりみたりできるようにするために・・・
3. 「造形的な見方・考え方」を身につけ、生活に活かせるようにするために・・・



「生きている自然」を表そう ～LIVE SUIBOKU (水墨)～

名前 ()

○水墨で「生きている自然」をえがきましょう。まず、「生きている」「自然」についてのイメージを広げましょう。それらをつなげられるといいですね。

生きている

自然

○水墨のどんな表現を使って、「生きている自然」を表したいですか？（例：大きな筆を使って勢いよく風を表現したい・・・）
